


<b>奈良市</b>  <b>手をつなぐ親の会だより</b>	NO 391	令和5年3月24日(金)
	発行 奈良市手をつなぐ親の会 会長 小西英玄 所在地 〒631-0801 奈良市左京 5-3-1 奈良市総合福祉センター内 Tel 0742-71-0770 <a href="http://naraoyanokaiinfo/">http://naraoyanokaiinfo/</a>	

## 春咲きコンサートのお知らせ



「春咲きコンサート」準備期間、コロナで延期をふくめると約30年の活動の軌跡。  
それぞれの時に開催テーマがありました。

『奈良市の障害児者の同窓会』『障害児者のネットワークづくり』  
『福祉のネットワークづくり』『福祉啓発 障害児者理解』『共生社会の実現』

そして、一貫したテーマは「福祉で街づくり」でした。親の会の活動理念でもある「福祉を基本とした街づくりができれば、障害の有無に関係なくすべての人が「住みよい街」に。

この9文字にはユニバーサルデザイン・バリアフリー・共生社会・地域福祉を包括しています。

このテーマで30年間活動を続けてきました「春咲きコンサート」を**2024年2月18日**に開催いたします。そして、少し残念ですが、春咲きコンサートは「第24回」を持って幕を閉じたいと考えています。100年会館全館利用規模の春咲きコンサートはこれが最後と考えています。

会員の皆さまには、協力券のご購入等で、ご支援・ご協力いただきありがとうございました。

開催の目的が100%達成したとは思っていません。しかし、『福祉で街づくり』の「0から1」は達成出来たと判断した結果です。私たちは、30年間「福祉は街づくり」を多くの人達に気づいて頂きたい。なら100年会館をひとつの街とイメージし、私たちがあってほしい街のイメージを演出しました。

福祉が成長し、地域が注目され、地域福祉推進のため、「地域福祉計画」「地域福祉活動計画」が作成されるようになりました。私たちが望んでいる地域、親が亡くなった後も、生活できる地域とは程遠いですが、『0から1』の役割は終わったと思います。後は専門家に委ねます。

ただ、「春咲きコンサート」を楽しみにしている私たちの子どもに、どのように伝え、理解してもらうかが、大きな課題です。

これからは難しい福祉ではなく、障がいをもつわが子たちが楽しむことができる場(余暇活動)を他機関と連携してできる限り展開していきたいと思っています。今までの規模の「春咲きコンサート」を開催することはできないですが、「ちいさな春コン」は続けていきたいと考えています。

8月27日(日)開催の「サマーカーニバル」の準備に入ります。楽しみにお待ちください。

会員の皆さまには、24年間、「春咲きコンサート」のご支援ご協力ありがとうございました。

### 【春咲きメッセージ】 ~わが子たちへ~

みなさま、お元気ですか。コロナ大変でしたが、頑張りましたね。

みなさまが楽しみにしている「春咲きコンサート」は来年の2月18日に行います。

4年間お休みしましたが、2月18日は笑顔で逢いましょう。楽しみに待っていてください。

皆さまに、お知らせがあります。

「春咲きコンサート」は、来年の2月18日「第24回春咲きコンサート」で終わります。

「春咲きコンサート」の卒業式です。

「春咲きコンサート」で逢うことはできませんが、「サマーカーニバル」「親子体操」「青年学級」「喫茶シャローム」「親子同窓会」「オータムアミーゴ」などで、逢うことが出来ます。

これからも、楽しい集いを考えていきます。楽しみにして待っていてください。

その時は笑顔で逢いましょう。

※保護者の皆さまにお願いします。ご本人への「春咲きメッセージ」をお子様にご読んであげてください。

そして、分かりやすく 説明をお願いいたします。

### 【春咲きメッセージ】～南かおりさんから～

ご無沙汰しております。南かおりです。来年2月がファイナルであること承知いたしました。

春咲きコンサートはたくさんの方々の楽しみの一つであったことはもちろんですが、この音楽への気持ちは形を変える時期に来ていたのかもしれない、と少し思いました。各施設によって状況も様々でしょうし同じようには毎年参加が難しいところもきっとあったと思います。

でも皆さんが蒔かれた種は確実にいろいろな場所で花ひらいていると私は思っています。大きな「春咲きコンサート」という場所は来年幕を閉じますが、続けてきた音楽を楽しみたいという想いは施設ごとも形にできたらいいですね。

何ヶ所かの施設合同で、たとえそれがいつもの練習場所であっても発表会をしたいという想いのある時はどうぞお声をかけてください。

MC(司会)として私が行くことで春咲きコンサートのDNAが残る証に少しでもなるならば、どうぞ呼んでいただければとおもいます。

とりあえずは来年！みなさんと元気にファイナルを迎えられますように…

楽しみにしています。



### 【福祉情報アラカルト】「逸失利益」について

「逸失利益」ご存知でしょうか？ 生まれつき難聴の女兒(当時11)が5年前、交通事故で亡くなりました。両親らが起こした損害賠償訴訟では、女兒が将来得られるはずの「逸失利益」をどう算定するかが焦点になりました。

### 「天声人語」2023年3月5日 朝日新聞より

大勢のろう者が手話でおしゃべりする中に一人でいたことがある。線香花火がはじけるように手や腕が動く。近況を伝えているのか、手話の分からぬこちらは立ち尽くすしかない。世界はぐるりと反転し、「障害者」は自分のほうだった。障害って何だろう▼そんな疑問を思い出したのは、井出安優香(あゆか)さん(当時11)をめぐる損害賠償訴訟の判決を読んだからだ。生まれつき難聴で手話も使っていた。5年前、重機にはねられて亡くなった。裁判では、少女が将来得たはずの収入が争点となった▼ご両親は健常者と同じ額を求めたが、大阪地裁は労働者平均の85%とみなした。わが子の命を数字に置き換えねばならぬ悲しさ、安く算定される悔しさ。ご両親の涙は二つの思いゆえだろう▼判決は、少女に障害があったことを働きにくさの理由とした。でも、働きにくいのは社会にこそ原因がある。障害者が生きづらいのは、世の中が多数派にあわせてつくられているからだ。環境やルールが変われば、「障害」という概念はぐるりと変わる▼絵空事ではない。東京・国立(くにたち)のスターバックスを訪れた。従業員29

人のうち聴覚障害者が15人を占め、客は声ではなく指さしや筆談などで注文する。開店から2年以上が過ぎ、すっかり当たり前の光景になっていた▼店員がろう者か聴者か、誰も気にする様子はない。「聴覚障害が労働能力を制限する事実であること自体は否定できない」。判決の一節が色あせる未来へ。手がかりは見えている。

-----

従来の半断棒組みと、法が目指す社会の理想像との間にずれがあれば、より良い規範を求めて検討を重ねるのが、裁判所をはじめ法律家の責務と思います。障がい者が生きた証、障がい者の存在すら否定する85%。逸失利益の問題外にも多くの課題が山積しています。どう変えていくのか方向性を指し示すのは、裁判所だけでなく、社会全体の責任であり、一人ひとりが考えるべき問題ではないでしょうか。